

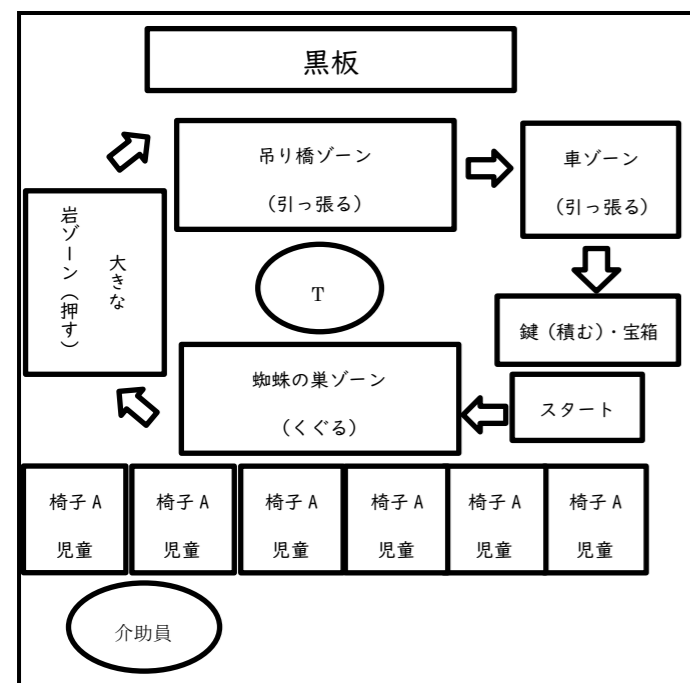
授業づくりシート

領域名 自立活動

3 学年

テーマ	冒険をしよう	
事例児の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・教師や友達の名前を覚えていて、名前を呼ぶことができる。(人間関係の形成) ・自分からの友達との関わりはあまり見られない。(人間関係の形成) ・自分から友達と手を繋ぐ時と繋ぎたくないというこだわりがある時がある。(人間関係の形成) ・言葉の指示だけで行動することができる。(コミュニケーション) ・自分の要求は単語で伝えることができる。(コミュニケーション) 	
事例児の個別目標	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と協力して障害物を動かしてコースを進むことができる。(人間関係) 	
活動内容と具体的な手立て		
活動内容	ねらい	具体的な手立て
冒険をしよう！	<ul style="list-style-type: none"> ・二人一組で協力して課題を解決する活動を通して、友達と一緒に取り組む楽しさを味わうことができる。 ・二人で力を合わせないと課題が解決できない場面で自分の役割を理解し、友達と協力して取り組むことができる。 ・活動の中で友達を応援したり、「一緒にできた」という達成感を共有したりすることで、人と関わる楽しさを実感することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と一緒に課題を解決することができるとうれしい気持ちになることを伝える。 ・二人で力を合わせないと達成できない課題を設定する。役割を理解し、協力して取り組んでいるときは称賛する。 ・教師の促しを受けて、友達へ「がんばれ。」などと応援できるようにする。 ・友達と協力できたことで、宝箱を開けることができたことを伝える。

○場の配置



○教材教具等

- ・ 蜘蛛の巣 (重り、ゴム紐) くぐる
- ・ 大きな岩 (跳び箱) 押す
- ・ 吊り橋 (紐) 引っ張る
- ・ 鍵 (箱) 積む
- ・ 宝箱

○展開

時配	活動内容	教師の支援等
9:50	○初めの挨拶をする。	・本グループの名前である「ドキドグループ」の動作サインを交えて挨拶を行う。(T・介助員：以下「介」)
9:51	○今日の活動の流れを知る。	・見通しをもって活動できるように、ホワイトボードに予定カードを貼りながら児童に知らせる。(T)
9:53	○活動のやり方をする。	・テレビにギガタブを用いて、冒険心をかき立てるような動画を流し、活動への期待感を高める。(T) ・活動のやり方を説明する。(T)
9:55	○「冒険しよう」の活動をする。 1、二人組でスタート 2、蜘蛛の巣をくぐる。 3、大きな岩を押す。 4、吊り橋を引っ張る。 5、台車を引っ張る。 6、鍵の箱を積む。 7、二人組でゴール	<ul style="list-style-type: none"> ・順番が分かるようにホワイトボードに表を貼ったり、目の前で呼名したりする。(T) ・活動の間、教室で冒険をしている雰囲気になるように音楽を再生する。 ・順番になった児童と一緒にコースを周り、言葉かけや手を添える支援を行う。(T・介) ・順番待ちの児童が応援できるように小道具を渡したり、「がんばれ。」と言ったりすることができるように促す。(T・介) ・次の活動がスムーズに行えるように、使った用具を所定の場所に戻す。(介)
10:08	○振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と協力することができたので宝箱を開けることができることを伝える。(T) ・宝箱を光らせることで、教師に視線を向けられるようにするとともに、達成感がもてるようにする。(T)
10:10	○終わりの挨拶をする。	・本グループの名前である「ドキドグループ」の動作サインを交えて挨拶を行う。(T・介)

○成果と課題

○それぞれのゾーンで協力を意識して活動できるように難易度を調整した。
 ○二人一組での活動にしたことで、自然と重い物や引っ張る物を協力して動かしていた。
 ○スタートとゴールの場所を一緒にしたことで、出発して帰ってくる動線がわかりやすかった。
 △二人でないと動かせない障害物のため協力を意識することができたが、協力の意味を考えるとコミュニケーションの領域も取り入れた方がよい。